（北海道栗山町　栗山町立北海道介護福祉学校）



福祉・介護人材不足の背景

〇少子高齢社会の進行

・人口減少社会、地域軸・時間軸格差、世帯構造変化　等

〇要因の複合的関連の構造化

①職業認知機会の不足

・職業特性による認知機会・体験機会の少なさ

②修学支援情報の周知

・経済的事情、就学支援制度の周知不足、教育機会の提供

③定着促進の仕組みづくり

・キャリアパス（デザイン）支援、ロールモデル育成

地域と福祉・介護現場のニーズに応じた職業人材の養成

【福祉・介護現場の課題】

〇国家資格および専門的視点を有する人材の不足（確保）

・量的課題　～　福祉・介護人材の絶対数不足

・質的課題　～　専門的知識（中核的人材）を有した人材の確保

・福祉・介護への関心を高める　→　「人が生ききる」「誰もがいつかは通る」という視点

・地域軸・時間軸格差、就業後の定着格差問題、知識基盤社会への対応

【地域の課題】

〇福祉・介護への共感、当事者可能性を理解した地域人材の育成

・共生社会を構築するための地域人材の教育及び育成機会

・福祉・介護に視点を向けた地域住民の教育機会

・人権教育の機会

教育プログラムの一貫性（接続）：全体像

将来（ SDGs から SWGs へ）、

〇少子高齢・人口減少社会で活躍できる介護の知識を有した人材の育成

〇地域のサスティナブルに取り組むために必要な知識と技術を兼ね備えた人材の育成

【具体的実践】

〇地域で学び、地域で育て、地域に貢献できる人材を応援

・地元で学ぶ人たちを高校、専門学校、地元企業の方々と連携して応援

・将来、地域社会に貢献し、中核的立場で活躍する人材を育成

〇高校、専門学校、行政、地域、企業の連携による人材教育

・人的、物的協力を得ることで実効性の高いプログラムを展開

・地域で育て、地域に貢献する人材育成を目指す

〇福祉・介護の視点からのキャリア形成支援

・結果として職業人材養成、福祉・介護の視点を有した人材の育成



教育プログラムとの「一貫性（接続）」：目標レベル

将来（ SDGs から SWGs へ）、

〇少子高齢・人口減少社会で活躍できる介護の知識を有した人材の育成

〇地域のサスティナブルに取り組むために必要な知識と技術を兼ね備えた人材の育成

【高校での到達目標】

・栗山町の自然や暮らし、介護・福祉に興味関心があり、地域の課題解決に主体的にとりくむことができる

・地域課題に目を向け、福祉・介護に興味・関心を有している

・職業としての福祉・介護を理解できる

・地域社会の構成員として、主体性を有することができる

【専門学校での到達目標】

・国家資格を有する者として、自然と生命を尊び、一人ひとりの人間を大切にする視点に立つことができる

・社会福祉従事者としての知識と技術を兼ね備えた専門職として、人々が共に生きる社会を創造する主体的担い手となる人材

対人援助・生活支援（介護福祉士）の仕事・視点は

「人がどのように『生ききる』か」をテーマにしている





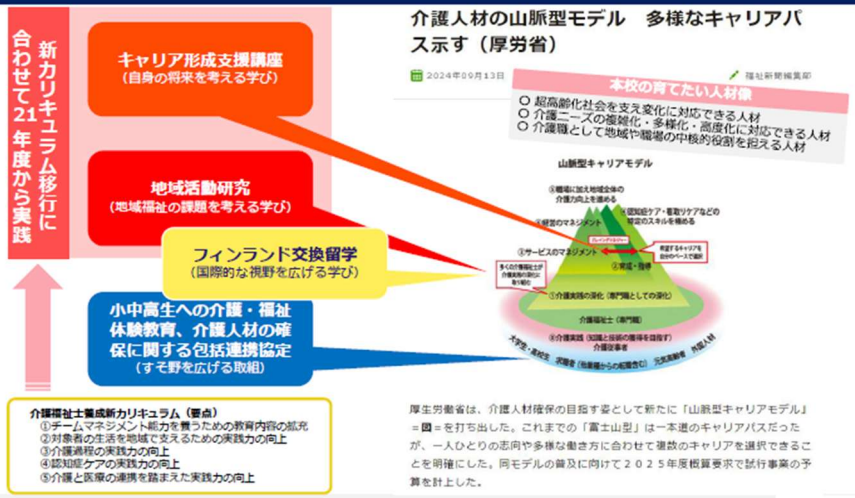
一人一人が持つ感性と

多くの知識や技術が必要となる

縮小社会において、福祉・介護の視点を持った人材の養成機会をどのように作るか

福祉的視点からのキャリア教育と、ＳＷＧｓへのソフトランディング

本校の独自カリキュラムと国が示すキャリアモデルの類似性



専門職教育機能の活用

○専門職養成教育機関としてのさらなる深化・進化

○ハブ機能（社福系大学編入・看護系学校編入等）の活用

○相談機能の活用

○情報の集約点と発信点としての機能の活用

○その他

ソーシャル・キャピタル

○人々の協調行動を活発にすることで社会の効率性を高めることのできる、

社会的信頼・互酬性の規範・ネットワーク

といった社会組織の特徴

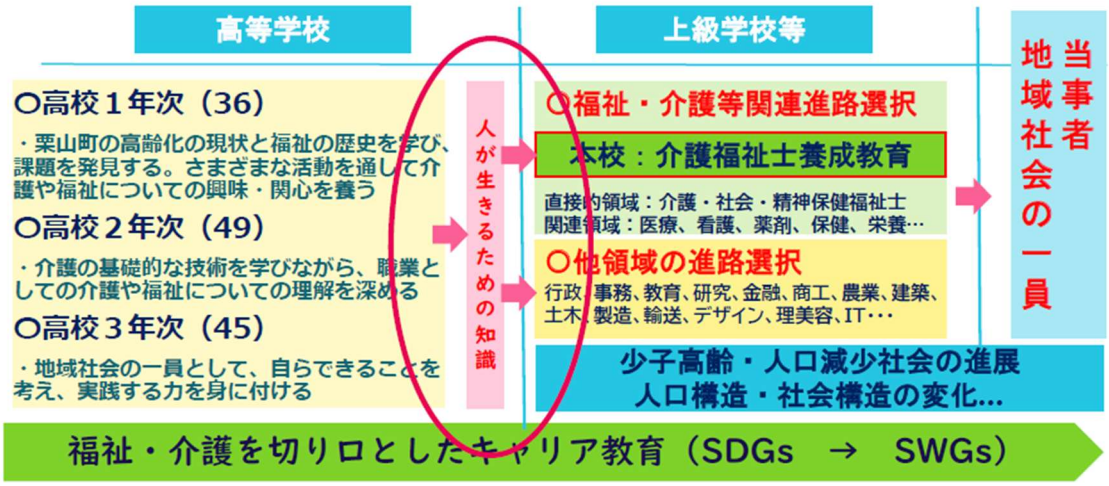
住民間の信頼感
それほど知らない人への薄い信頼>よく知っている人への厚い信頼

お互いさまの意識
相手のために行うことが、いつか自分のためになると期待して行う助け合い

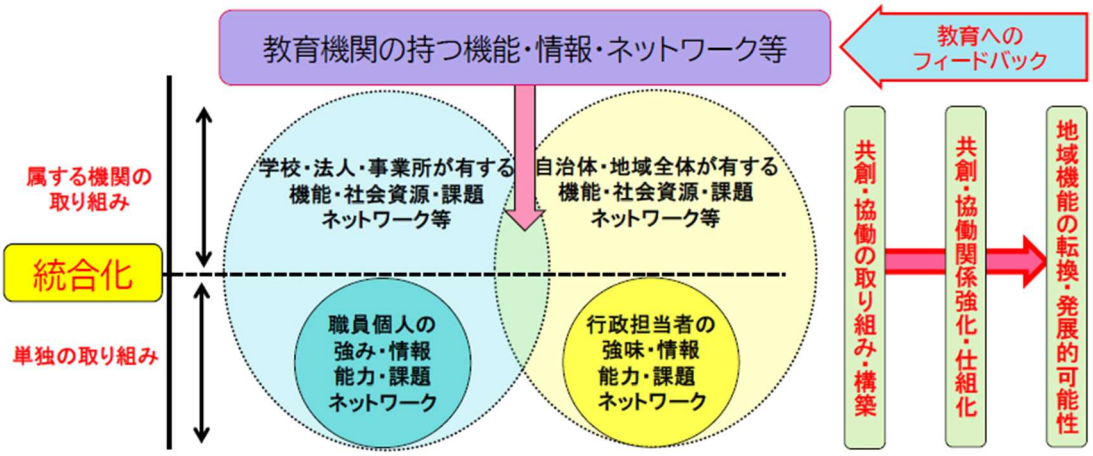
なじみの関係
横のつながり
>縦のつながり

集合行為問題の解消への期待
具体例：近隣の治安向上、経済の発展、健康と幸福感の向上、民主主義の機能化、よりよい政府の実現など

教育プログラムと本校の接続性を含む地域社会との関連性



時間軸・地域軸を視野に入れた協働体制づくりへ



栗山町は「福祉の街、くりやま」を標榜

栗山町における特徴的な教育の取り組み

～福祉の視点で将来を見据え、町内の教育機関及び地域機能を活用～

①町内小中学校：総合学習で福祉授業を位置づけ

・次年度は"接続した新たな活動"を計画中

②北海道栗山高等学校

・普通科で福祉・介護のキャリア教育を展開する特徴ある高校

③北海道介護福祉学校

・専門職養成教育と独自カリキュラム、キャリア教育を展開

・大学編入ルートで、専門職養成機能と専門職養成ハブ機能を有している

SDGs → SWGs　を視野に入れた福祉教育のスキーム

栗山町における一貫した福祉教育体系の進化と深化

〇小中高等学校の12年間を、一つの一つの継続した学びと捉えることができる、地域住民を巻き込んだスキームが確立

〇子どもたちが地域の人と触れ合いや体験活動を通して、互いを思いやり、助け合い、励ましあいながら、地域を誇りに感じ、まちの担い手としての自覚を持つための教育、地域共生社会を実現するための取り組み

〇様々な情勢が変化する社会、福祉・介護のDX・ICT化など、状況にあわせたプログラム構成への対応



小中学校・高等学校と介護学校の連携による福祉教育体系

【現状と課題】
・人口減少により生産年齢人口は50%を割り込む。介護人材不足により、介護サービス提供量不足の問題が発生
・一貫した教育・啓発活動により、地域特性を生かし誰もが共生・協働する地域づくりへの取組
・「（啓発）発掘～育成～教育（研修）～定着」というプロセスと、他分野でも福祉・介護の視点の活用

小学校	中学校	高等学校	介護学校	地域社会
基礎的体験	応用的体験	実践的体験	専門教育	地域貢献
・遊びから福祉を学ぶ ・日常体験から考える	・職業の福祉を学ぶ ・資格を考える	・職業と福祉の関連 ・栗山と福祉の学び	・専門職養成教育 ・独自カリキュラム	・共生社会の構築 ・地域貢献を考える
身近な体験から考える 【共通テーマ】 ・当事者講話 ・パラスポーツ等、障害者、高齢者等と共に楽しめるスポーツの体験 ・高齢者・障害者疑似体験 ・車いす、白杖を使った学校内のバリアを探せ等体験 ・車いすスキー体験 ・読み聞かせ 【実施上の留意点】 ・大規模校：低学年、高学年別 ・小規模校：縦割れ班で実施 ・同じ内容を繰り返さない	仕事としての福祉を学ぶ 【１年生】（導入） ・障害者、高齢者と共に楽しむ ・福祉と介護の講話 【２年生】（展開） ・コミュニケーション 介護機器と介護の技術体験（車いす、ベッドメイク等） 【３年生】（まとめ） ・介護福祉士が行う医療行為（喀痰吸引等） ・職業としての福祉 ・キャリアパス（資格） 【実施上の留意点】 ・小学校の内容を発展的に実施	高齢者介護に関する関心・意欲・態度を育てる 【令和5年入学生より】 ・栗山高校では、栗山と福祉が必修科目（協力） ・高校生介護技術コンテスト参加の体制等を構築 【３年生】 選択科目：生活と福祉 ・ベッドメイキング、体位変換、車いす介助 ・レクリエーション 【実施上の留意点】 ・同一体験でもより専門的に	専門職の技能を習得 ・国家資格取得 【独自カリキュラム】 テーマ：「くりやまで学び、くりやまに返す」 ・地域活動研究（ゼミ） 地域の社会資源を活用した将来へつながる学び ・キャリア形成支援講座 ・大学編入指導 ・半学半教体験 ・ボランティア活動	・介護人材確保 介護サービス量確保 ・持続可能性への挑戦 共生社会の実現 （共生と協働） ケアラー支援 ・地域の一員として 地域づくりへの関与 他産業における福祉と介護の知識の活用 ・公開講座等で啓発の機会づくり（福祉・介護の視点から他分野とコミット）

高専連携（教育プログラム開発）

地域活動研究・社会資源活用・ボランティア活動等

全世代型介護・福祉教育による地域づくりへの関与・啓発活動

本年度の具体的授業内容（１年次1/2）

テーマ：栗山町の高齢化の現状と福祉の歴史を学び、課題を発見する。さまざまな活動を通して介護や福祉についての興味・関心を養う

授業回	
1～3	オリエンテーション、映画で学ぶ福祉
4・5	栗山の福祉と歴史
6～13（20・21）	生活支援技術（車椅子体験、外出演習、まとめ）
	※外出演習は介護学生と合同
14～17	上級学校訪問（社会福祉系大学）
18～19	車椅子再発見プロジェクト（協力：車椅子エバンジェリスト）
	※介護学生合同、地域公開講座

本年度の具体的授業内容（１年次2/2）

テーマ：栗山町の高齢化の現状と福祉の歴史を学び、課題を発見する。さまざまな活動を通して介護や福祉についての興味・関心を養う

授業回	
22～23	パラスポーツ体験（協力：NPO法人あ・りーさだ）
	※介護学生合同、地域公開講座、役場福祉課協力
24・25	福祉現場経験者の話
	※介護学校卒業生、関係者協力
26・27	盲導犬に関すること（盲導犬協会）
28・29	自治体の福祉計画と自治体福祉担当者の仕事（協力：栗山町福祉課）
30	車椅子ユーザーの視点を活かした街づくり
31～33	介護・福祉現場のICT化、介護ロボット体験（介護学生合同）
34・35	栗山と福祉１年次のまとめ

本年度の具体的授業内容（２年次１/2）

テーマ：介護の基礎的な技術を学びながら、職業としての介護や福祉についての理解を深める

授業回	
１・２	オリエンテーション、栗山と福祉２年目の活動
３・４	映画で学ぶ福祉
５・６	ハンセン病を考える（協力：ハンセン病資料館） ※介護学生合同、地域公開講座
７～９	介護技術を学ぶ
10～17	認知症の理解を深める（VR体験、サポーター養成講座、徘徊訓練） ※介護学生合同、地域公開講座、住民協力

本年度の具体的授業内容（２年次2/2）

授業回	
18～19	福祉施設を見学しよう（協力：町内の福祉施設）
20～21	手話講座
22～23	防災教室の話（協力：防災したっけ） ※介護学生合同
24	車椅子製作者の話（協力：就労支援事業所）
25～26	バリアフリー住宅見学
27～28	発達障害を考える
29～30	講談で学ぶ成年後見制度
31～34	北海道介護福祉学校　地域活動研究報告会・キャリア形成支援講座参加
35	２年目のまとめ

本年度の具体的授業内容（３年次）

テーマ：地域社会の一員として、自らできることを考え、実践する力を身に付ける

授業回

１・２　　オリエンテーション、栗山と福祉２年間の活動（振り返り）
３～7　　高齢者プレゼント制作ガイダンス
８～9　　手話講座
10～13（17～18）レクリエーション講座・企画
14～16・19・20　　認知症サポータースキルアップ講座
21～23　　町内会訪問活動
24～30　　栗山と福祉３年間のまとめ、発表
※　高校生介護技術コンテストへの参加支援

本事業における現状【工夫点】

○高専連携支援員の配置・学内での役割分担

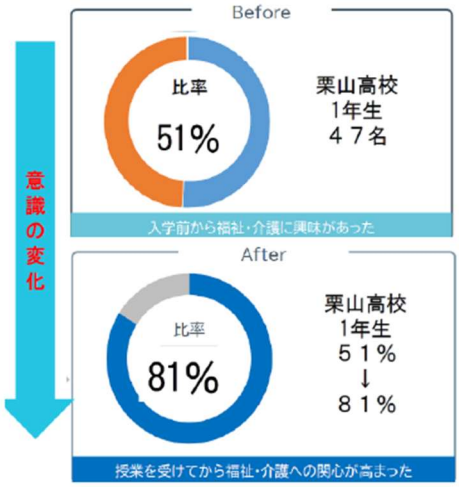
○地域における社会資源の活用

○専門学校生との接点づくり
・介護学生は半学半教の体験、ロールモデル

○高校側のネットワークの活用

○義務教育・地域への啓発を含めた一貫した福祉教育のスキーム

実証事業振り返りアンケート（令和６年度入学生：１年次）



○高校生の自由記載より

・まちづくり、公共設備に関連する記述
・コミュニケーション、世代間交流に関する記述
・介護人材育成に関する記述
（専門学生が高校生のロールモデルへ）
・生徒学生交流は、「知っているつもり→実際・実感」への記述があり、キャリア教育要素を含む

○介護学生は半学半教体験

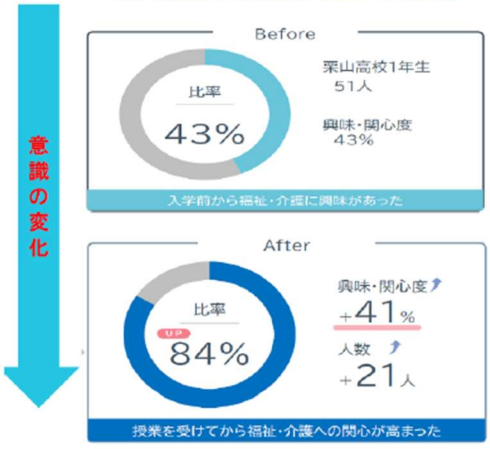
・将来、専門職として地域で活動するための実践学習・体験・演習になる
・中核的人材（指導的立場）の経験

高校生・介護学生の意識に影響を与える

令和５年度栗山高校入学生も同様の傾向

実証事業振り返りアンケート（令和５年度入学生：２年次）

【１年次終了時点のアンケート結果】



【2年次終了時点アンケート結果】

○２年生終了時点で１年生と比較して

①1年生の時よりも興味関心が高まった　87%
②福祉や介護の理解の深まり　95%
③福祉介護は人の暮らしに関連　93%
④福祉や介護をもっと知りたい　76%
⑤福祉や介護以外をもっと知りたい　83%
⑥自分の進路を具体的に考えるようになった　87%
⑦職業としての福祉・介護について理解が深まった　89%

○自身の変化

①福祉介護の問題を自分に置き換えて考えるようになった　84%
②社会の課題を考えるようになった　91%
③地域づくりにおける自分の役割を考えるようになった　80%

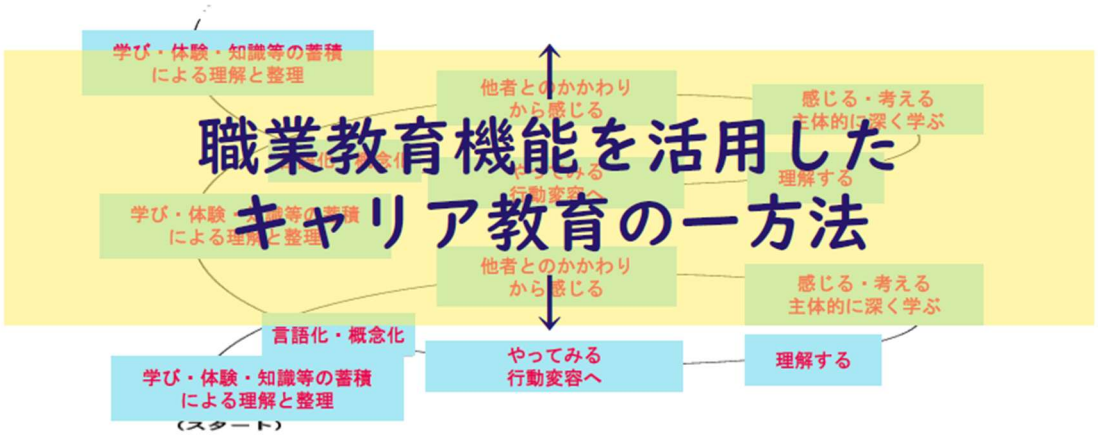
自身の変化を実感している傾向がある

本事業における効果と課題

【効果】
○類似する場面で、学んだ知識を活用できた
　例：①街中で困っている高齢者に自ら声をかけた
　　②介護技術コンテストに参加した
○進路選択に役立った

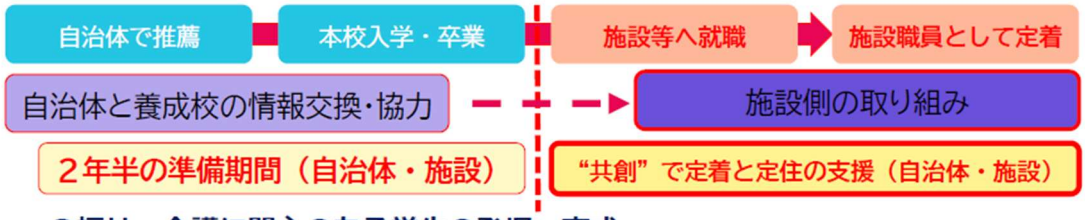
【課題】
○３年間を振り返った発表を行ったが、紹介に留まってしまった
○詰め込みになった。議論やアウトプットの機会を増やすことが必要

螺旋的・循環的取り組みのイメージ



職業教育機能を活用した
キャリア教育の一方法

自治体連携：水平展開で見えてきたもの（1/2）



〇福祉・介護に関心のある学生の発掘・育成

- 自治体・施設・学校との情報共有
- 進路選択時の学生の様相把握

〇介護職員として定着させるために

- 介護福祉士養成のカリキュラム、養成校における独自科目等の把握と共有
- 養成校教育と職場における教育・研修の連動性、サポート制度、キャリアパスの精査
- 入職時支援、定住支援、業務改善、施設内の雰囲気、人間関係等の改善
- 同級生、同窓生のネットワーク、アドバイスの影響は大きい

自治体連携：水平展開で見えてきたもの（2/2）

社会の変化と教育の連動



地域の状況、少子高齢社会、外国人介護人材、定住率、高校の存続、発達障害、不登校児童、人生100年時代、社会情勢の変化、生涯学習教育、Society5.0、AI時代のニーズにこたえる幼児教育と学校教育の在り方、変化の激しい時代に対応する人材教育、ダイバーシティ、GIGAスクール構想、カリキュラム・マネジメント、持続可能・SDGs教育など学習指導要領で示された「社会に開かれた教育課程」への道筋、
小中一貫教育を根幹に据えた「学びと育ちの連続性」→学びと授業のモデルチェンジを促す「主体的・対話的で深い学び」の実現、ヤングケアラー、コミュニティスクール、
超スマート社会の実現に向けた技術革新、DX、共生社会の実現を目指したソーシャルインクルージョン（社会的包摂）の推進等

今後に向けて事業の課題

〇担当者の負担感の軽減と仕組化
〇高校側とのコンセンサス
〇連絡調整・定期的な打ち合わせ機会の設定
〇協力者・理解者の確保
〇予算の確保
〇令和９年度以降を見据えた準備
〇幼保小中高と専門学校・大学・地域社会等との連携
〇水平展開に向けて
〇その他



0123-72-6060
栗山町湯地60番地

5-（3）セミナー実績（申込状況/視聴者数/アンケート結果）

高専接続事業で開発したプログラムの成果と課題　専門学校と高校を接続し中核人材を育成

第 1 回：令和 8 年（2026 年）1 月 14 日（水）　16：00～18：00

第 2 回：令和 8 年（2026 年）1 月 15 日（木）　16：00～17：45

第 3 回：令和 8 年（2026 年）1 月 16 日（金）　16：00～17：45

Zoom によるオンライン開催（受講料：無料）

事前申込数：149 名　　※全日程一括で申込を受け付けた

当日視聴者数：1 月 14 日-59 名、1 月 15 日-70 名、1 月 16 日-48 名

■事前申込者の属性：

業種	申込件数	割合
建設業	3	2.0%
製造業(機械・電機・電子部品)	3	2.0%
製造業(輸送用機器)	1	0.7%
製造業(食品・化学・医薬)	1	0.7%
製造業(その他製造)	1	0.7%
自動車整備	2	1.3%
IT・情報通信	7	4.7%
金融・不動産	2	1.3%
メディア	1	0.7%
介護・医療サービス	3	2.0%
その他サービス	12	8.1%
専修学校	76	51.0%
高等学校	11	7.4%
大学	5	3.4%
日本語教育機関	1	0.7%
その他の教育機関	11	7.4%
その他	9	6.0%
計	149	100.0%

左記で「専修学校」を選択した方の専門分野（複数回答あり）

専門分野	申込件数	割合
工業分野	30	39.5%
農業分野	2	2.6%
医療分野	26	34.2%
衛生分野	4	5.3%
教育・社会福祉分野	16	21.1%
商業実務分野	24	31.6%
服飾・家政分野	4	5.3%
文化・教養分野	17	22.4%
計	76	100.0%

企業にお勤めの方の従業員規模・業種

従業員規模	企業数(業種)	
1～9人	6社	（金融・不動産／その他サービス）
100人未満	8社	（建設業／自動車整備／IT・情報通信／介護・医療サービス／その他サービス）
300人未満	9社	（製造業(機械・電機・電子部品)／IT・情報通信／その他サービス）
300～1,000人未満	6社	（建設業／製造業(輸送用機器)／金融・不動産／メディア／その他サービス）
1,000人以上	7社	（製造業(機械・電機・電子部品)／製造業(食品・化学・医薬)／自動車整備／介護・医療サービス／その他サービス）

■アンケート結果：

【専門学校と高等学校を接続し中核人材を育成】

高専接続事業で開発したプログラムの成果と課題

＜2026年1月14日、1月15日、1月16日開催＞

アンケート集計結果

Q1　あなたのお立場をお聞かせください。　【SA】

	n=54		
1	専門学校教職員	41	75.9%
2	高等学校教職員	2	3.7%
3	上記以外の学校関係教職員	3	5.6%
4	専門学校の学生を採用する企業（経営者、役員）	0	0.0%
5	専門学校の学生を採用する企業（人事・採用担当）	1	1.9%
6	専門学校の学生を採用する企業（その他のご担当）	0	0.0%
7	国、自治体の職員	0	0.0%
8	その他の団体	4	7.4%
9	学生・生徒	0	0.0%
10	その他	3	5.6%

Q2　あなたの所属するお勤め先または学校の所在地をお聞かせください。　【SA】

n=54		
北海道	6	11.1%
福島県	1	1.9%
群馬県	1	1.9%
埼玉県	1	1.9%
東京都	15	27.8%
神奈川県	2	3.7%
山梨県	1	1.9%
愛知県	3	5.6%
京都府	4	7.4%
大阪府	2	3.7%
島根県	1	1.9%
岡山県	1	1.9%
山口県	1	1.9%
徳島県	1	1.9%
香川県	1	1.9%
福岡県	2	3.7%
長崎県	4	7.4%
宮崎県	5	9.3%
鹿児島県	2	3.7%

Q3　本会に参加した目的をお聞かせください。（複数回答）　【MA】

	n=54		
1	専門学校と高等学校などとの連携・接続に関心があったため	47	87.0%
2	現在の専門学校の教育のトレンドを知りたかったため	14	25.9%
3	専門学校の学生の採用に関心があったため	4	7.4%
4	その他	2	3.7%

Q4 前問で「4.その他」をお選びの方は具体的にご記入ください。(自由記述)

- 受託団体関係者
- 発表関係者

Q5 (「専門学校教職員」とご回答の方にお聞きします)
ご所属の学校の分野を教えてください。(複数回答) 【MA】

n=41

1	工業分野	14	34.1%
2	農業分野	2	4.9%
3	医療分野	17	41.5%
4	衛生分野	1	2.4%
5	教育・社会福祉分野	10	24.4%
6	商業実務分野	13	31.7%
7	服飾・家政分野	0	0.0%
8	文化・教養分野	3	7.3%
9	その他	1	2.4%

Q6 (「高等学校教職員」とご回答の方にお聞きします)
ご所属の学校の学科を教えてください。(複数回答) 【MA】

n=2

1	普通科	1	50.0%
2	農業科	0	0.0%
3	工業科	0	0.0%
4	商業科	1	50.0%
5	水産科	0	0.0%
6	家庭科	0	0.0%
7	看護科	0	0.0%
8	情報科	0	0.0%
9	福祉科	0	0.0%
10	その他専門学科	0	0.0%
11	総合学科	0	0.0%

Q7 (「専門学校の学生を採用する企業」とご回答の方にお聞きします)
貴社における専門学校の学生の採用状況について教えてください。 【SA】

n=1

1	これまでも専門学校の学生を採用しており、今後も採用を検討したい	0	0.0%
2	これまで専門学校の学生を採用したことがあるが、今後の採用の予定はない	0	0.0%
3	これまでは専門学校の学生を採用したことがないが、今後は検討したい	1	100.0%
4	これまで専門学校の学生を採用したことはなく、今後も採用の予定はない	0	0.0%
5	わからない	0	0.0%

Q8　（「専門学校の学生を採用する企業」とご回答の方にお聞きします）
貴社の業種を教えてください。　【SA】

n=1		
1 農林水産業	0	0.0%
2 建設業	0	0.0%
3 製造業	0	0.0%
4 IT・情報通信	1	100.0%
5 エネルギー	0	0.0%
6 商社・卸売・小売	0	0.0%
7 自動車販売・整備	0	0.0%
8 介護・医療サービス	0	0.0%
9 美容サービス	0	0.0%
10 エンタテインメント、メディア	0	0.0%
11 その他サービス	0	0.0%
12 その他	0	0.0%

Q9　本日の講演内容について、全体的なご感想をお聞かせください。　【SA】

n=54		
1 とても参考になった	10	18.5%
2 参考になった	37	68.5%
3 どちらでもない	4	7.4%
4 あまり参考にならなかった	3	5.6%
5 参考にならなかった	0	0.0%

Q10　参考になった講演をお選びください。（複数回答）　【MA】

【1/14開催分】n=18		
学校法人小山学園　専門学校 東京工科自動車大学校	8	44.4%
一般社団法人 沖縄専門人材開発研究会	5	27.8%
株式会社東京リーガルマインド	5	27.8%
学校法人日本航空学園日本航空大学校　北海道	11	61.1%
学校法人KBC学園　インターナショナルリゾートカレッジ	4	22.2%
学校法人KBC学園　沖縄ペットワールド専門学校	4	22.2%

【1/15開催分】n=20		
学校法人穴吹学園	12	60.0%
学校法人国際総合学園　新潟会計ビジネス専門学校	9	45.0%
学校法人宮崎総合学院　宮崎情報ビジネス専門学校	7	35.0%
一般社団法人日本eスポーツ学会	9	45.0%
学校法人京都コンピュータ学園　京都コンピュータ学院京都駅前校	11	55.0%

【1/16開催分】n=16		
学校法人西野学園　札幌心療福祉専門学校	4	25.0%
北海道栗山町 栗山町立北海道介護福祉学校	4	25.0%
学校法人智帆学園　琉球リハビリテーション学院	5	31.3%
学校法人仙台北学園　仙台リハビリテーション専門学校	7	43.8%
公益社団法人福岡県歯科医師会立　福岡歯科衛生専門学校	7	43.8%

Q11　講演をお聞きになって、より詳しく知りたいと思ったプログラムがあれば、お選びください。（複数回答）　【MA】

【1/14開催分】n=18

学校法人小山学園　専門学校 東京工科自動車大学校	2	11.1%
一般社団法人 沖縄専門人材開発研究会	0	0.0%
株式会社東京リーガルマインド	1	5.6%
学校法人日本航空学園日本航空大学校　北海道	3	16.7%
学校法人KBC学園　インターナショナルリゾートカレッジ	2	11.1%
学校法人KBC学園　沖縄ペットワールド専門学校	1	5.6%

【1/15開催分】n=20

学校法人穴吹学園	5	25.0%
学校法人国際総合学園　新潟会計ビジネス専門学校	2	10.0%
学校法人宮崎総合学院　宮崎情報ビジネス専門学校	1	5.0%
一般社団法人日本eスポーツ学会	2	10.0%
学校法人京都コンピュータ学園　京都コンピュータ学院京都駅前校	5	25.0%

【1/16開催分】n=16

学校法人西野学園　札幌心療福祉専門学校	0	0.0%
北海道栗山町 栗山町立北海道介護福祉学校	1	6.3%
学校法人智帆学園　琉球リハビリテーション学院	0	0.0%
学校法人仙台北学園　仙台リハビリテーション専門学校	1	6.3%
公益社団法人福岡県歯科医師会立　福岡歯科衛生専門学校	4	25.0%

Q11　本会の運営について、ご感想をお聞かせください。　【SA】

n=54

1 とても良かった	8	14.8%
2 良かった	34	63.0%
3 どちらでもない	10	18.5%
4 あまり良くなかった	1	1.9%
5 良くなかった	0	0.0%
無回答	1	1.9%

Q12　今後どのような方のお話を聞きたいかお聞かせください。（講演者、テーマ、分野等）

- 他の学校様の取組を知る良い機会にありました。このような会を設けていただきありがとうございました。御礼申し上げます。
- IT分野の取り組みについて
- 本校では、介護福祉士を養成しております。近隣の高校に出向いて初任者研修の授業を行ったり、小中高等学校で出前授業を行ったりしておりますが、日本人入学者が減少しており、逆に留学生が増えています。日本語学校と専門学校の関係性や連携・接続、また現在不足している介護福祉士希望者を今後どのように確保していくのか等、課題が多いです。現場では、介護福祉士が不足していて困っているという話も聞きます。現在の課題について、是非ご教示いただければ幸いです。
- 理系人材輩出に向けた、専門学校と大学（文系・理系）との連携について
- 見逃し配信希望